



命の大切さ 誕生学講話

第43号

校長 久高利美子

十二月十七日(火)「生命誕生といのちの大切さ」というタイトルで知念菜穂子さん・西平みゆきさんにお話をいただきました。毎年実施している誕生学講話ですが、子供達が、命について立ち止まって考える機会になればと思っています。感想を紹介します。

【一年 中村綾那】 赤ちゃんは、抱っこしてもらったり、話しかけてもらったりしないと一歳にもならないで命を落としてしまうということを聞いてびっくりしました。なので、私たちは親や周りの人にたくさん愛情を注いでもらったんだなと思いました。生命誕生といのちの大切さについていろいろなことが分かったし、とても大切なことだということも分かりました。

【一年 崎浜望結】 赤ちゃんはいろんな工夫をして生まれることが分かったし、赤ちゃんは愛情を注がないと一才のうちに亡くなってしまつと聞いてびっくりしました。十ヶ月もおなかの中に赤ちゃんがいるのは重いし大変だなと思いました。人の体はいろんな工夫があることが分かったし、自分も愛情

を注がれてきたことが分かりました。女子は子宮とか生理がきて大変だと思つたし、赤ちゃんは子宮の中で外に出るための準備をやっていることも分かりました。子宮から生まれていたのは忘れただけ、こういう風に生まれてきたというのが分かつてよかつたし、体のことも知ることができてよかつたです。

【一年 岸本恵人】 最初はエロいことだと思つて聞きたくなかつたけど、話を聞いて命を生むために大事なことだと思つた。自分たちに注がれた愛を自分の子供に注げるように命をあずかりたいです。そして、最初にできた赤ちゃんの小ささにびっくりしました。

【一年 森越夕都】 西平先生の話で一番驚いたのは、昔の王様の実験の事です。抱いたり、愛情を注がなかつたりすると赤ちゃんはなくなつてしまつと知つて、自分に愛情を注いでくれた母親に感謝を言いたくなりました。他にも子宮にいるときの赤ちゃんの大きさやそこから出てくる時の赤ちゃんの工夫など多くの事を知りました。今はもう忘れてしまいましたが、昔の自分がとても頑張つて、そして、たくさん愛情を注いでもらつていたという事を胸に刻み込もうと思つています。

【一年 新垣亜莉也】 中学生になり、いじめや自殺が身近になり、自分も命を軽く見るような行動を考えたことがありました。でも「いじめるた

めの命じゃない」「いじめられるための命じゃない」という言葉を聞いて勇気を出して頑張ろうと思つました。また、自分の命だけではなく、他人の命もしっかり考えようと思つました。

【二年 上里彩華】 今日、知念菜穂子先生のお話を聞いて、命の大切さを知つて、タイミングやむかえ入れる準備ができてから赤ちゃんのことを考えようと思つました。また、お母さんの大変さも知つて妊婦さんには優しくしようと思つました。講話を聞いて赤ちゃんがとても可愛く見えました。自分もたくさん愛して、他人にもたくさん愛そうと思つました。

